

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点 プレゼン教育・歩み出ア教育・越え挑戦し続けるICT教育	⑤安全・安心で快適な学校環境の整備 ④DXを地域で実践する学校環境の整備 ③子ども地域、自己実現の推進 ②豊かな心、健康な身体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進 ①豊か、健やかな体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進	心ゆたかにたくましく生きる子	「自立力」自ら考え、判断し、行動する力	(学習) 学びを深める	① 複線型の授業形態	1) 学習課題や学習の進め方、学習形態等を児童自らが選択し、自己調整しながら学びを進めるための授業実践を行う。	B	○グループ機の適切な活用、対話活動とアウトプットの活動(発表や作品作り)の積極的な取り入れを継続した。児童にも仲間との対話を通して学ぶ学習スタイルが定着し、アウトプットの活動も精一杯取り組むことができた。保護者や地域の方に発信する機会もあった。 △課題設定、学びを振り返る場については、教員間で話題に出し、意識的に研究することで実践と成果を明らかにする。
					① 学ぶ必然性のある課題設定	1) 驚き、疑問、相手意識、目的意識を大切に、学習活動(習得、活用、探究)に合わせた課題設定を行う。	B	
					① 深い学びのための対話活動	1) 目的や視点を明確にして対話活動を行う。	A	
					① 学びを振り返る場の設定	1) 学びを振り返る場を設定し、学んだよさを体感できるようにする。	B	
					① アウトプット活動の開発	1) 児童の表現力、文章力を育成するため、アウトプット活動を単元に位置づける。	A	
				(生活) 考えて動く	② 「やりぬく自分」の取り組み	1) 「自己をみつめる場」「考え判断する場」を通して、自己決定する機会を設ける。	B	○日ごろから、他学年、保小の交流を行っており、相手の気持ちを考えながら関わる経験を積んだ。活動を共にする中で、相手のスマイルを引き出すことの良さを児童自らが体験し、学校全体に「自分も相手もスマイルに」ということが浸透している。 △自己決定をする機会を設けることについては、高学年になる程、その場面が多くあった。低学年についても、自己決定の場はあったが、学年に応じた場面について整理し、引き継ぐようにする。
						2) 「よさみつけ活動」(自己評価、他者評価)を通して、よさを自覚する場を設定する。	A	
					⑤ 安心できる居場所づくり	1) 居場所づくりと集団生活の向上を図る。(学級活動、児童会活動、コスモス班)	A	
						2) 多様な人と触れ合い、考え方を広げ、違いを受け入れる場を設定する。	B	
					③			
				スマイルプロジェクト	② 自分のスマイルを作り出す「なりたい自分」の実現	1) 係や当番活動、授業などで「なりたい自分」に向けて成長できたことを評価(自己、他者)する。	B	○「スマイル」を合言葉に年間を通して取り組んだことで、児童にも浸透し、どんな活動でも、また日常生活でも相手のことを考えた行動が増えた。縦割り活動や保小の交流の充実を図ることができ、普段も児童自らが、年下の仲間に対し、優しく関わるができています。 ○毎年行っている「ミニ観光大使プロジェクト」において、今年も児童による手作りリーフレットを完成させ、各所で紹介をすることができた。 △「なりたい自分」に向けて、振り返りをしながら取り組むことができた。今後は、このことが児童の成長にどうつながっているか検証をすることで、確実な成果につなげたい。
					① みんなのスマイルを作り出す「やりたい活動」の実現	1) 学級活動、児童会活動、コスモス活動、縁日などの取り組みにおいて企画運営の経験をする。	A	
					① スマイル対象の拡充	1) 異学年交流、保育園交流、地域交流、地域連携などの推進を行う。	A	
					③ 「高山ミニ観光大使プロジェクト」	1) 地域のよさの発信等、地域に貢献する活動を行う。	B	

学校運営協議会における主な評価内容

○全校で大切にしている「スマイル」という言葉は分かり易い。学校教育全般に浸透している。授業では、元気に話し、楽しく学んでいる。行事では、自分たちで考えて各自のよさが活かされていた。「スマイル」の合言葉が児童の姿でもよく表れている。
 ○今後も今年度の成果が継続するような取り組みを続けるとよい。